

「身近なものから」

静岡県 静岡市立清水小島中学校 1年 <sup>やました</sup>山下 <sup>きょうか</sup> 恭佳

私の住んでいる地域は、土砂災害がおこりやすいです。

私の家は、山に囲まれていて近くには川が流れている自然豊かな所です。しかし、大雨や台風がくると一変します。小学生の時にきた台風では、雨の影響で道路に山が崩れ車が通れなくなってしまったり、家のすぐ近くにまで山が崩れてきたり、とても危険な所がありました。いつも見慣れていた景色が、こんなにも短時間で大きく変わってしまったことにおどろきました。また、自分の身の周りにあったごく普通の山が人の命をうばう危険な一面を持っていることを知りました。

小学校六年生の時に、土砂災害について学ぶ会がありました。土石流や地すべり、崖崩れが起こると想定される場所が分かる、土砂災害危険箇所マップを見て、友達の家が危険区域内に入っていて災害に巻き込まれる可能性があることが分かり驚きました。

次に、災害を防ぐための砂防えん堤について学び、小学校の上に見える予定の場所を実際に見学しに行きました。砂防えん堤は、小さな溪流などに設置される土砂災害防止のための設備の一つです。土砂がたまることによって川底が削られるのを防ぎます。また、斜面がゆるくなることで水の流れがおそくなり土砂の流れを調節することができます。

山崩れ後、修復のための工事はよく目にしますが、防ぐための工事があることが分かり、危険な箇所を知り、災害に備え対処をしておく事が大切なのだと知りました。

中学生になって間もない頃健康診断に来てくださる先生が、大雨の影響で道路が崩れ遠回りして来てくださったことがあります。私達地域住民が利用する生活道路の国道 52 号線は、山沿いであり山崩れなどがおこると道路が寸断されてしまいます。抜け道も少なく日常生活に大きな影響を及ぼします。

そこで、中学生の私にできる自主防災について考えました。静岡市では、各家庭に防災対策に活用できる静岡市防災マップが配布されています。このような冊子をよく読み、災害に備えることが大切だと思います。また、地域で行われる防災訓練に参加し、「みんなの地域はみんなで守る」という意識を持つ事で、地域の一員として役に立てると思います。防災対策の基本である自らの命は自分で守る「自助」ができるように、様々な情報を防災訓練やインターネットを利用して学ぶことが中学生の私にとって一番大切だと思います。次に「共助」。地域や身近にいる人と協力し助け合うことです。そのためには、近所の人達と交流を持ったり、地域の活動に参加することが必要だと思います。日頃から顔のみえる関係でいることが避難時や避難生活でも助け合うことができるそうです。

災害について調べて分かったことは、中学生でも防災の知識を身につければとても頼りになる存在になれるということです。また、被災時にも中学生ボランティアとして役に立てることがたくさんあることが分かりました。地域の人達みんなで役割りを分担し、進んで自分にできることをやろうという姿勢が大切になることも分かりました。

しかし私は、自分から人に話しかけることがとても苦手です。なので、ボランティアなどに参加して人前で話す力をつけていきたいです。